

【中学校-技術・家庭科 (家庭分野)②】

お金を「払う」のはなぜ?- ～売買契約と支払い方法～ (スライド構成例)

<講師のみなさまへ>

◆本資料は、「J-FLEC『標準講義資料』による授業実践のための学習指導案」をもとに作成したスライド構成例です(全3回の連続講義の実施を想定しています)。

◆実際の講義資料を作成される際は、「J-FLECのご紹介」スライドを必ず追加し、ご説明を行ってください(連続講義を実施される場合、全体を通じて1回ご説明ください)。

目次

1

1

【はじめに】
金融リテラシー
ってなに？

2

【使う】
生活設計
(ライフプランニング)

3

【使う】
家計管理
と決済

4

【貯める・増やす】
資産形成
の基本

5

【備える】
保険
の仕組み

6

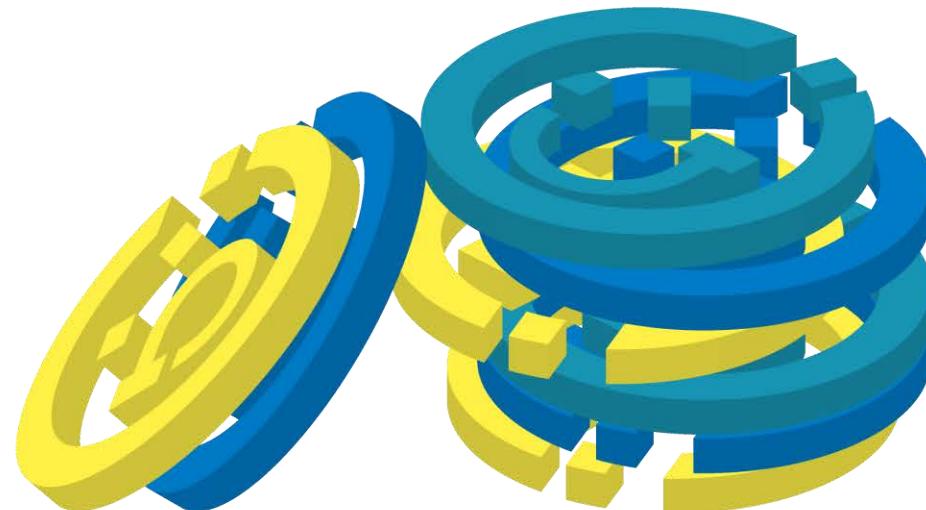
【借りる】
ローン・
クレジット

7

【注意】
金融トラブル

1 【使う】

家計管理と決済



クイズ



皆さんがお店で商品を買ったり、お店が商品を売ったりするときの約束を、売買契約といいます。では、契約が成立するのはいつでしょう？

- ①皆さんが商品を選んで、「これください」と言った時
- ②店員さんが「はい、わかりました」と言った時
- ③代金を支払った時
- ④商品を受け取った時



答え

②店員さんが「はい、わかりました」と言った時

『契約』とは、『法律上の責任がともなう約束』のことです。

契約が成立すると、買う人と売る人はお互いに
お金を支払ったり、商品を渡したりしないといけません。

『一方的にこの約束をやめることはできない』ので、
買い物をするときにはよく考えることが重要です！

(1) キャッシュ

物理的な現金(紙幣・硬貨)

現金



(2) キャッシュレス決済

お札や小銭などの現金を使用せずにお金を支払うこと

電子マネー

デビットカード

クレジットカード

二次元コード



※キャッシュカードにデビット機能を備えたものがあります。

電子マネー



デビットカード



クレジットカード



二次元コード



特徴	事前にカード等にお金をチャージしておき、支払いの際はカード等の残高から支払われる	支払いを行うと、銀行などの口座からその場でお金が引き落とされる（中学校を卒業すると作れるようになることが多い）	支払いを行うと、後日利用した金額がまとめて銀行などの口座から引き落とされる（18歳になると作れるようになることが多い）	事前にスマホのアプリ等にお金をチャージしておき、支払いの際はアプリの残高から支払われる（事前にチャージをしていなくても、即時払いや後払いを利用できることもある）
支払い・チャージのタイミング	前払い	即時払い	後払い	前払い（即時払いや後払いのものもあり）

○ キャッシュレス決済には、『**メリットと注意点**』があります。どちらもよく理解したうえで、自分の生活に合わせて賢く利用しましょう。

メリット

- ✓ 現金をたくさん持ち歩かなくてよい
- ✓ ATMに立ち寄る回数が減る
- ✓ お金のやり取りが簡単
- ✓ 何にいくら使ったか、アプリで確認できるなど

注意点

- ✓ 使った実感がわきにくいので、使いすぎてしまいやすい
- ✓ 店舗によって利用できないこともある
- ✓ 停電時などに使えない
- ✓ 不正利用などへの不安など

売買契約について次の問題に答えましょう。

① 契約は、誰と誰の間に成立しますか。

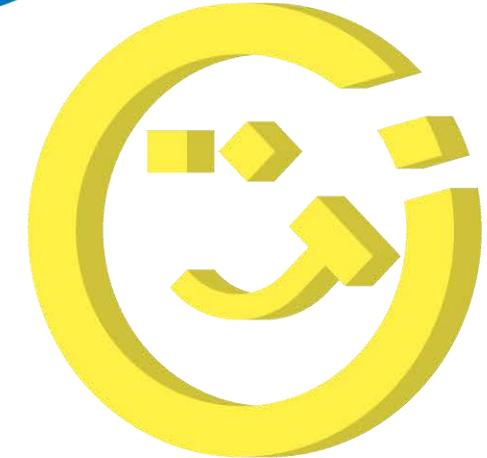
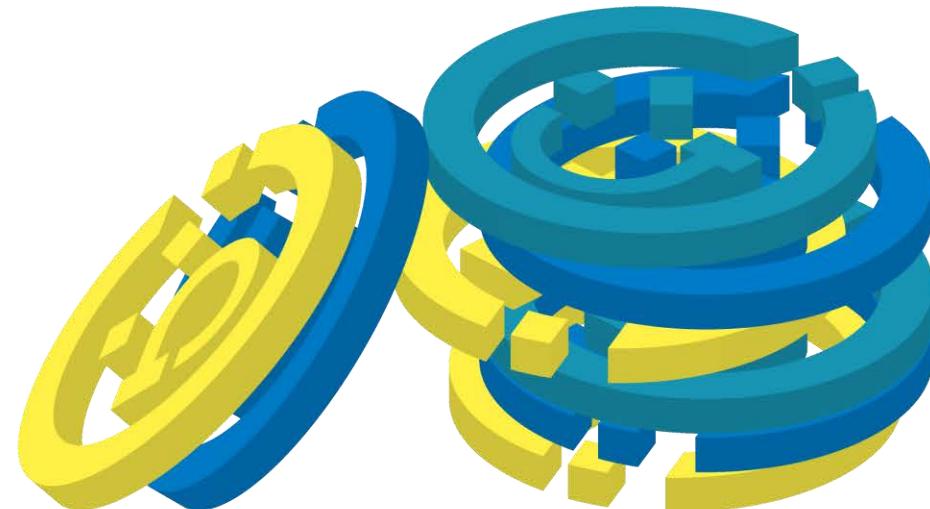
② 契約が成立すると、①で答えた人達の間で、何と何が交換されますか。

キャッシュレス支払いのメリット(良い点)とデメリット(問題点)を2つずつあげましょう。

メリット(良い点)	デメリット(悪い点)
• •	• •

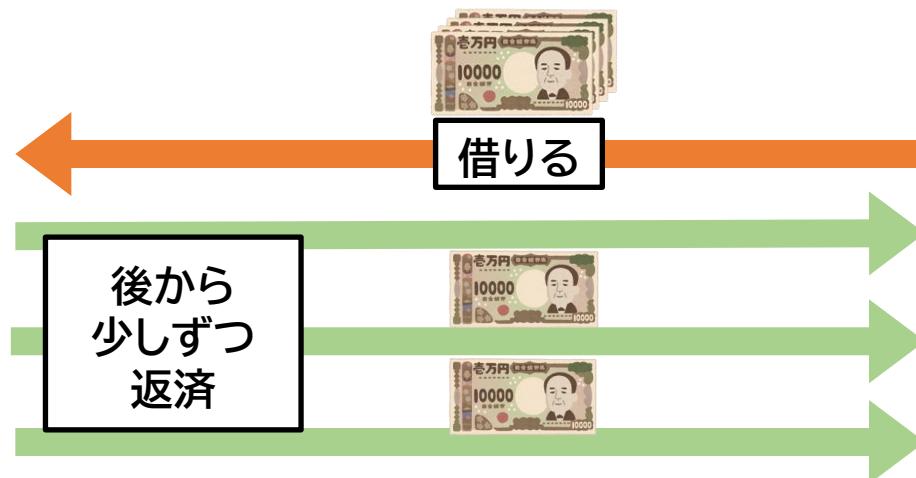
2 【借りる】

ローン・クレジット



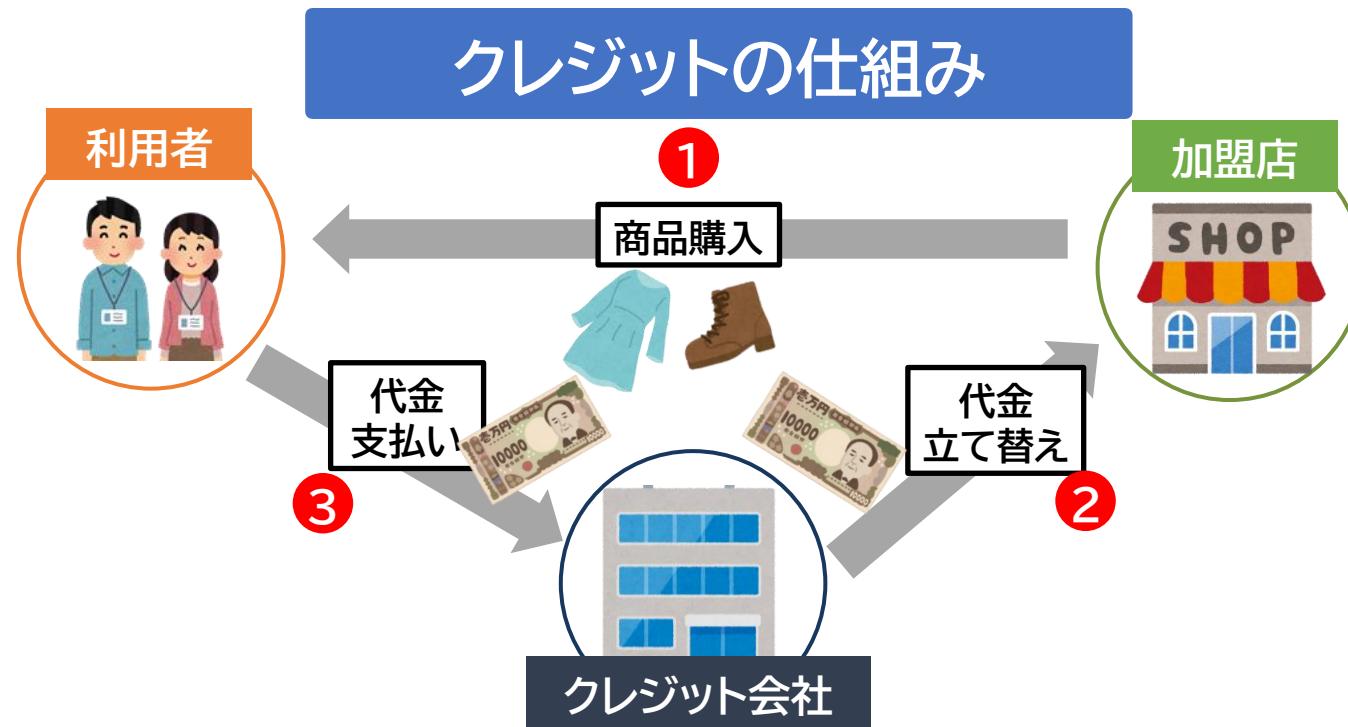
- ローンとは、住宅や自動車など、『お金を一度に用意するのが難しい買い物をする場合に、金融機関からお金を借りて、後から少しずつ支払う約束』のことです。

ローンの仕組み



住宅・自動車などの高額な買い物で後から少しずつ返済。

- クレジットとは、『商品などを買った時点では代金を支払わず、後から支払う約束』のことです。
- 大半は『クレジットカード』での利用になります。



ローンとクレジットは、仕組みは違いますが、どちらも『後で返済(支払い)が必要な借入れ(借金)』です。

- お金の貸し借りには『利子・金利』がかかります。
- シミュレーション等で月々の返済額などを確認したうえで、『計画的に利用』しましょう。

利子(利息)

借りたり貸したりしたお金に、一定の割合で支払われる対価(お金)です。

金利(利率)

お金を貸したり借りたりする時の「値段」です。

元本に占める利子の割合(%)で表示されます。

利息の計算式

利息は下の式で計算できます。

$$\text{元金} \times \text{金利} \times \text{借入れ期間} = \text{利息の総額}$$

10万円を年利15%で1年借りると?

$$10\text{万円} \times 15\% \times 1\text{年} = 1\text{万}5,000\text{円}$$

※実際にお金を借りたときの返済金額とは異なります。

○ ローンを利用するときは以下の点に注意しましょう。

- お金を借りたら利息をつけて返さなくてはいけない。
『返済期間が長くなるほど利息を含めた支払額は大きくなる』。
- 金利は経済状況や個人の信用度、使い道などによって変わる。
→『自分が返せる範囲でお金を借りることが重要』。
- 支払いの遅延などで、「信用度」がさがると、他のローンが組めなくなったり、クレジットカードが作れなくなったりする。



特に住宅ローンや自動車ローンは利用する人も多くなりますが、
『ローンは借金であるという意識』を持ち、計画的に利用しましょう。

- クレジットカードには「ショッピング機能」と「キャッシング機能」があります。
- 支払い方を選べ、『リボ払い(リボルビング払い)・分割払いには手数料がかかるため、総支払金額が大きくなります』。

使える機能

- ショッピング機能
購入代金の立て替え・後払い
- キャッシング機能
現金の借り入れ

支払い方

1回払い

ボーナス
一括払い

リボ払い



分割払い

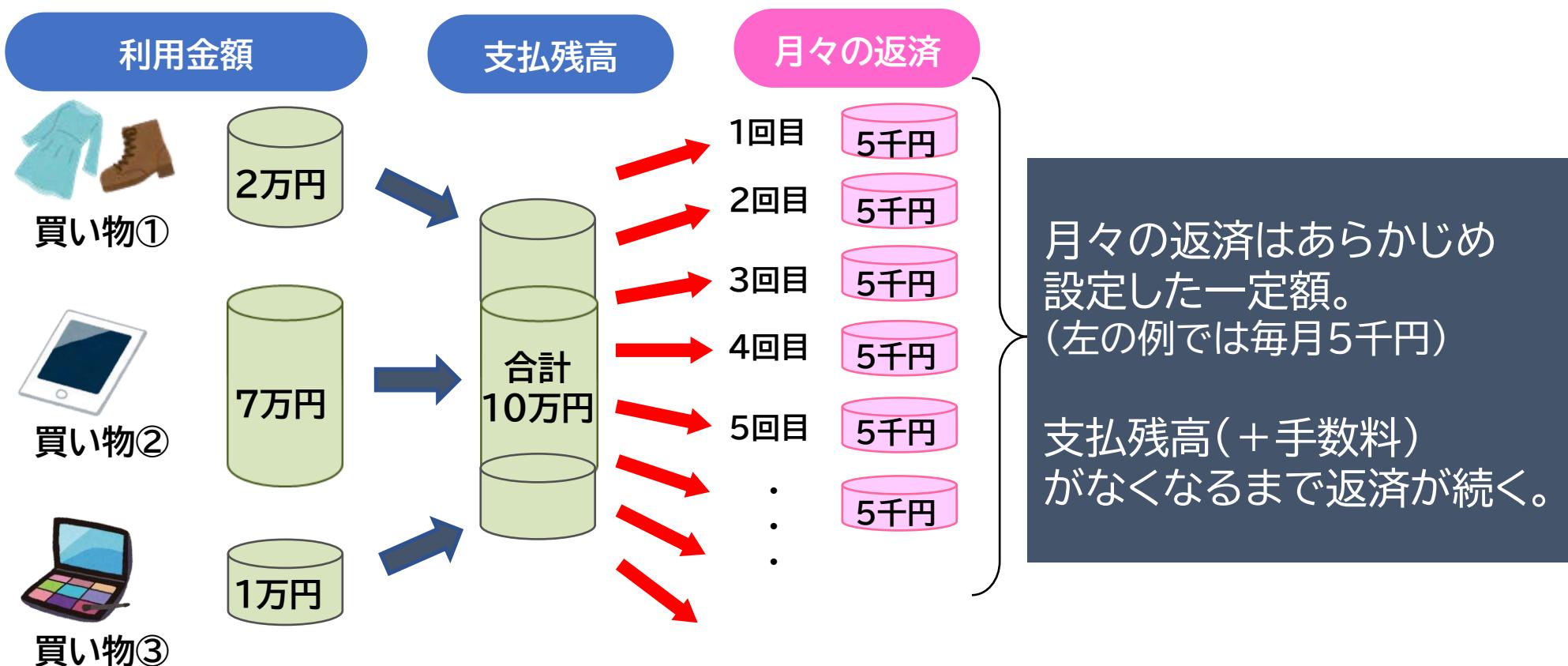


手数料のめやす

1~2回	分割払い
なし	11~15%
リボ払い	キャッシング
12~18%	15~18%

クレジットカードを利用するには、カード会社による審査があります。カードの利用は原則本人のみです。

- リボ払いとは、カードの利用金額や利用回数にかかわらず、
『あらかじめ設定した一定の金額を月々返済する方式』です。
- 家計管理がしやすい一方、返済期間や総返済額に注意が必要です。

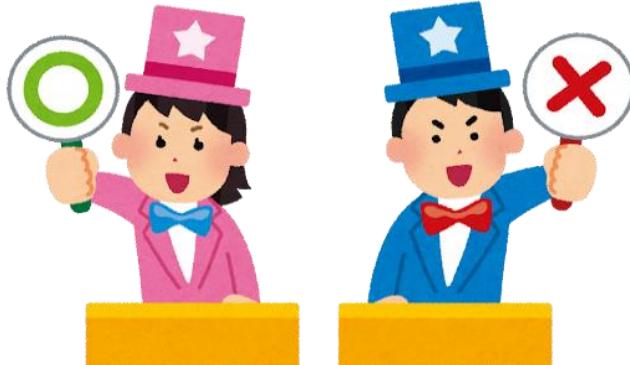


クイズ



友達と海外旅行に行くので、年利(年間の金利)18%のリボ払い30万円のツアー代金を支払いました。毎月5,000円ずつ返済する場合、返済には何年かかり、総額いくら返すことになるでしょうか？

- ① 約6年、約35万円
- ② 約9年、約48万円
- ③ 約13年、約77万円



<ヒント>

最初の月、返済額5,000円のうち手数料の金額はどれくらいでしょうか？
（「30万円×年利18%」をもとに計算してみましょう。）

答え

③

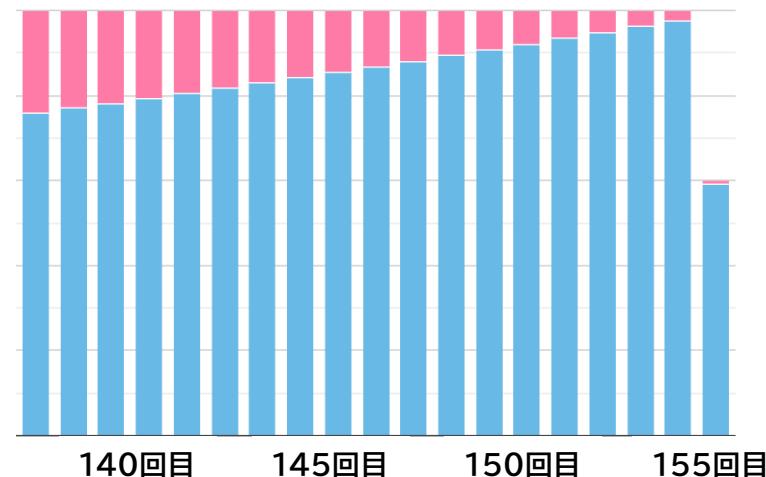
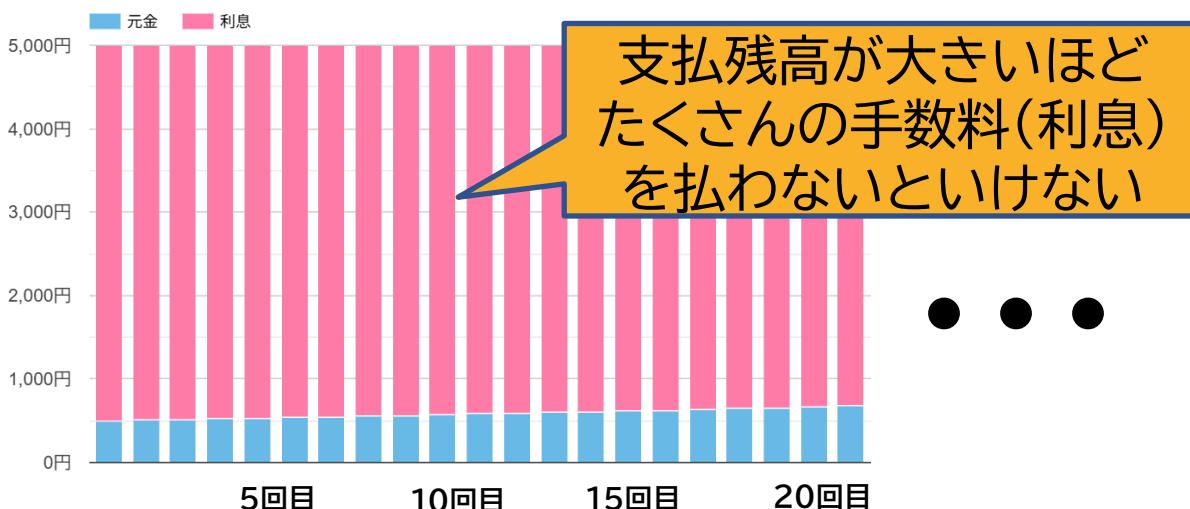
手数料が毎月発生するため、30万円の元本に対して、
返済期間は約13年、返済額は約77万円にもなってしまいます。
クレジットカードは、返済方法による総返済額の違いにも注意して
計画的に利用することが重要です。



<考え方>

- ・30万円の18%は54,000円(手数料)です。
- ・最初の月の手数料は $30\text{万円} \times 18\% \div 12\text{カ月} = 4,500\text{円}$ 。
月の返済額(5,000円)－手数料(4,500円) = 500円が元本の30万円から減ります。
⇒概算ですが、1年かけて60,000円返しても(毎月5,000円 × 12カ月)、30万円の元本から6,000円しか減りません。

- 30万円をリボ払い(年利18%)、毎月5千円で返済すると、返済期間約13年(155回)、総返済額772,996円になります。



※「返済手段」については「定額元利返済(金額指定)」を選択

利用する前に月々の返済額、返済期間、総返済額等を確認して、「返せる範囲」に収まっていることを確認しましょう。

日本貸金業協会 返済シミュレーション

検索

○ クレジットカードは非常に便利ですが、利用するときは次のことに気を付けましょう。

- 目の前のお金が減らないので、**使い過ぎる心配**がある。
- カードの紛失・盗難などで悪用される危険がある。
- 支払い遅延などで、「**信用度**」がさがると、ローンなどが組めなくなる。
- 分割払い(一般的に3回払い以上)・リボ払いは、借入金利にあたる**手数料**がかかる。



リボ払いで気を付けること

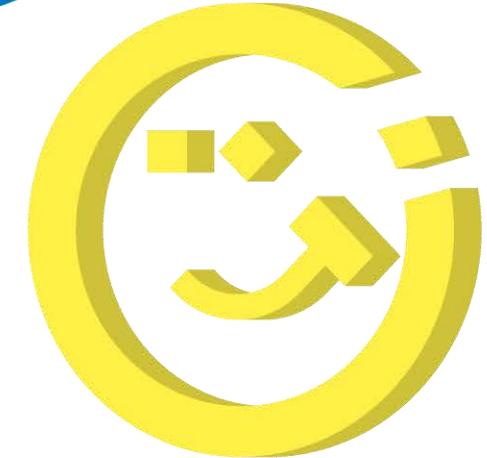
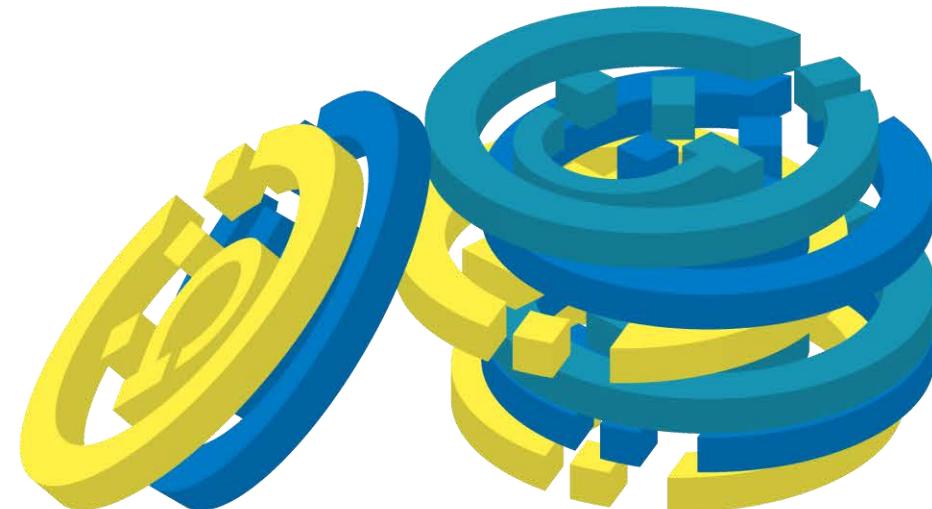
- 每月の返済額が少ないと支払残高が減らず、**長期間支払い**を続けることで**総支払額**が多くなる**可能性**がある。
- 現在の利用残高を確認せず、完済前にリボ払いを重ねてしまい、**気づかぬうちに多額の手数料**を支払うことになる**可能性**がある。
- 最近では、「フレックス払い」「つけ払い」「定額払い」等、**「リボ払いの名前を変えているケース」**もよく見られる。「リボ払い」の名前だけ覚えるのではなく、**どのような仕組みであるか**を理解しておく。

クレジットカードについて正しく説明されている番号を、すべて○で選びましょう。

- ① 後払いであるため、商品を受け取った時点で代金を支払う必要がない。
- ② カードの紛失・盗難などで悪用される危険がある。
- ③ クレジットとは、「信用」という意味であり、中学生の私たちはこのカードをもつことができない。
- ④ クレジットカードには、「ショッピング」と「キャッシング」がある。
- ⑤ クレジットカードは、クレジットカード会社への支払方法を選ぶことができる。
- ⑥ リボ払いは、手数料がかからないため、大変便利である。

③ 【貯める・増やす】

資産形成の基本



クイズ



お金が貯まりやすいのはどっちでしょう？

- ①毎月、お小遣いが残ったら貯金をする
- ②お小遣いをもらったら、使う前に貯金をする



答え

②お小遣いをもらったら、使う前に貯金をする

毎月残ったお金を貯めていく方法だと、
人間の心理的に目の前にあるお金を使ってしまいやすく、
思ったようにお金を貯めるのは難しいと言われています。
「毎月500円を貯金する」「お年玉の半分は貯金する」など、
ルールを決めるとお金が貯まりやすくなります！



- 例えば、お小遣いやお年玉をもらったら、自分でルールを決め、『最初にその一部を貯める』ようにしてみましょう。自分にとって無理のない金額で始めてみると、続きやすくなります。
- 大人になったら、『投資』などの方法も検討してみましょう。
- 工夫してお金を貯める・増やすことを『資産形成』といいます。

例えば…

お小遣い
1,000円

仕組み化

支出は
最大900円
でやりくり

必ず100円は最初に貯める
ルールを作る

- 預貯金や投資では、『単利』と『複利』という考え方があります。
 - 単利：元本のみに利息がつく計算方法
 - 複利：元本と利息を合わせた額に利息がつく計算方法

100万円を利率5%で運用する場合(税金等は考えない)

単利の場合

1年後: $100\text{万円} + 100\text{万円} \times 5\% = 105\text{万円}$

2年後: $105\text{万円} + (100\text{万円} \times 5\%) = 110\text{万円}$

複利の場合

1年後: $100\text{万円} + 100\text{万円} \times 5\% = 105\text{万円}$

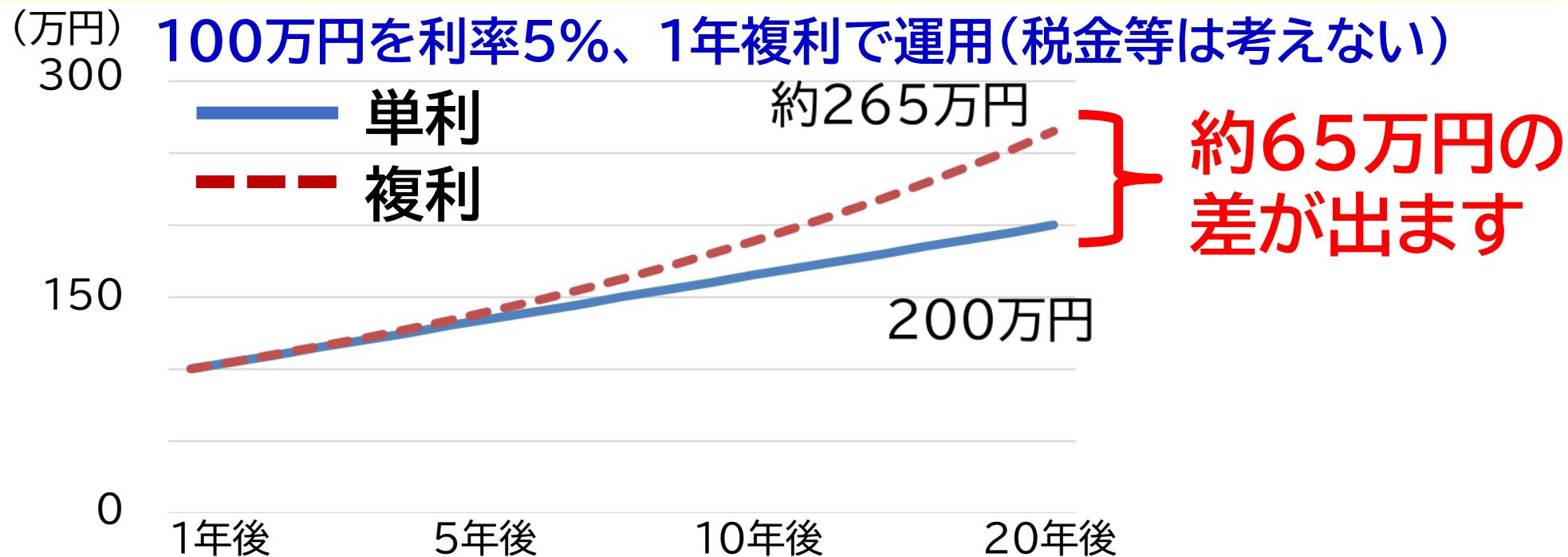
2年後: $105\text{万円} + (105\text{万円} \times 5\%) = 110\text{万}2500\text{円}$

複利の場合は元本の100万円だけではなく、利息の5万円にも利息がつくため、より多く資産が増えることになります。

○『単利と複利では長期間で考えると大きな差』が出ます。

－単利：元本のみに利息がつく計算方法

－複利：元本と利息を合わせた額に利息がつく計算方法



複利の効果を得るためにも、資産形成は長い時間コツコツ続けていくことが重要です。

- 金融商品による資産形成の方法としては、「預貯金」と「投資」があり、『**目的に応じた金融商品を選択**』することが重要です。

預貯金



- ◆ 貯めることを重視
- ◆ 元本保証等確実性を重視
- ◆ 運用成果(結果)は商品選択時に決まっている

投資



- ◆ 増やすことを重視
- ◆ 元本保証はない
- ◆ 運用成果(結果)は商品選択時に決まっていない

主な金融商品

普通預貯金

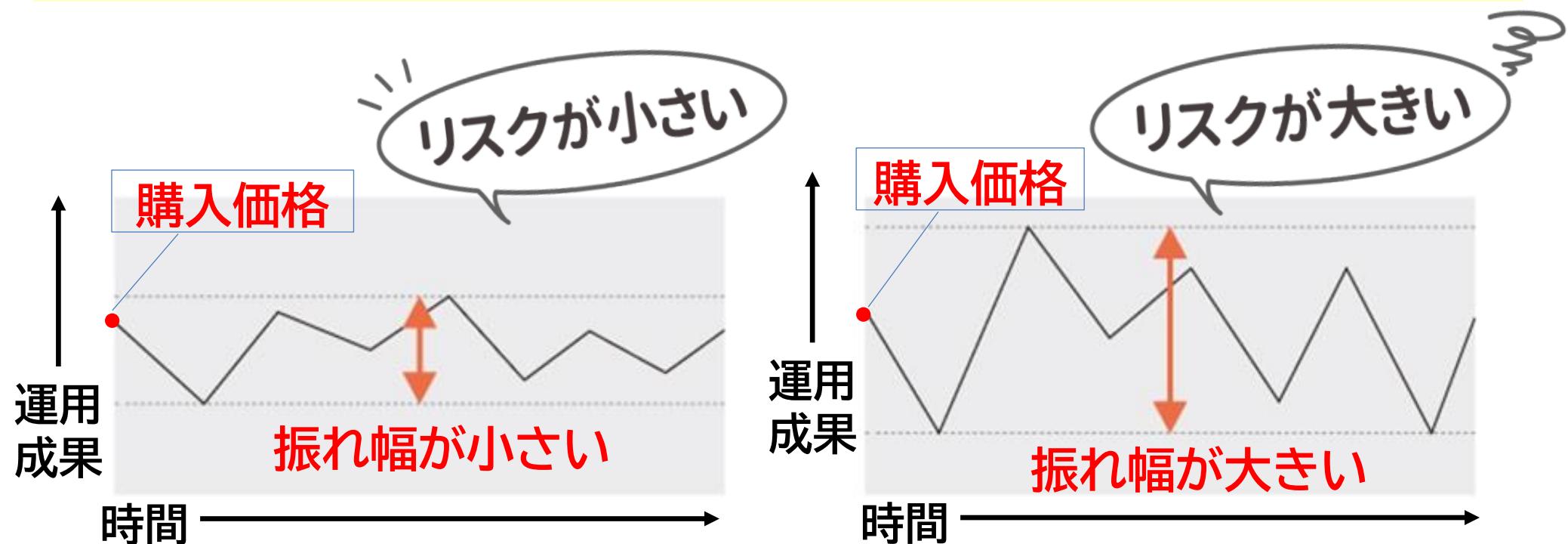
定期預貯金

積立定期預貯金

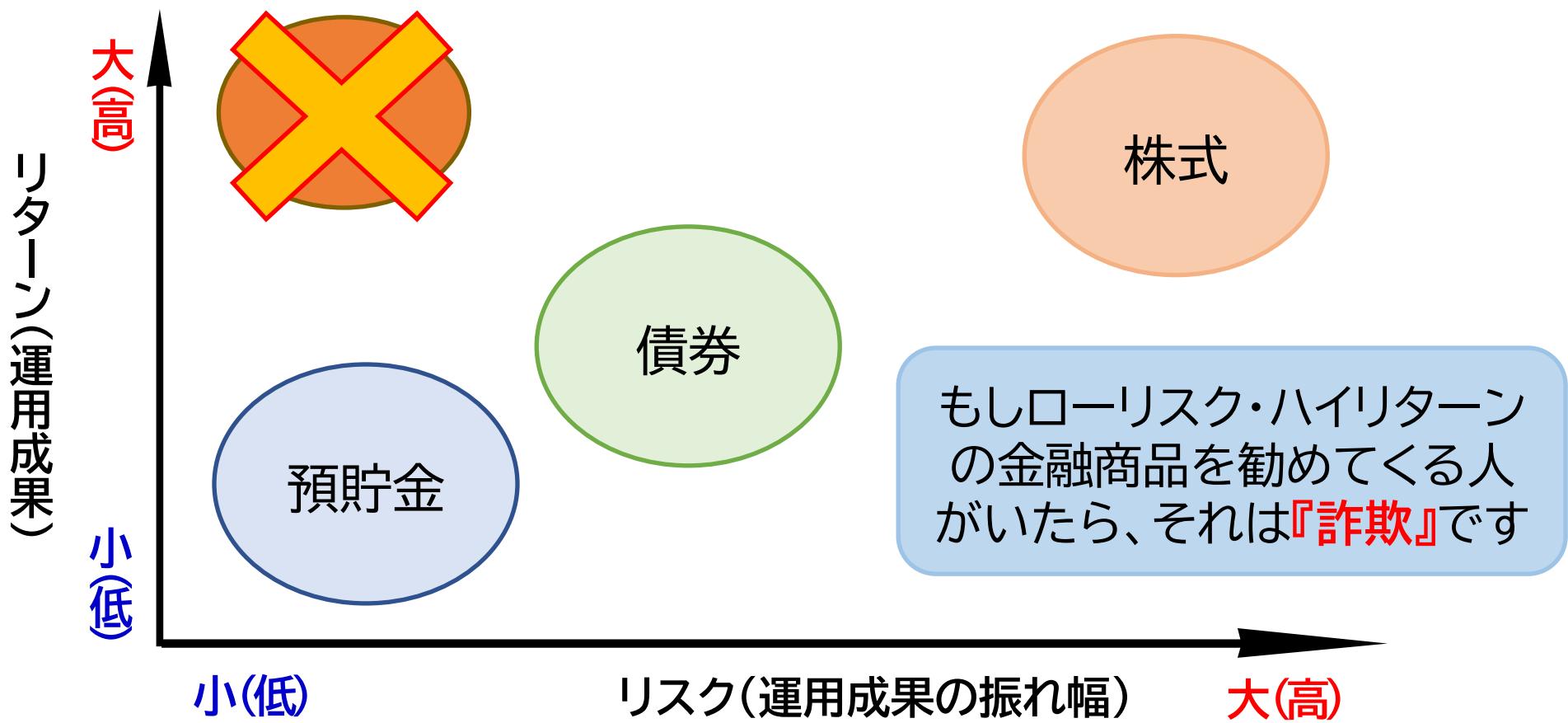
株式

債券(国債・社債など)

- 資産運用におけるリスクとは『運用成果の振れ幅』のことを指します。「リスクが大きい」とは、「とても危険」という意味ではなく、「大きく儲かるかもしれないし、大きく損をするかもしれない」(運用成果の振れ幅・不確実性が大きい)という意味です。
- 『保険で備えるリスク(危険)』とは意味が異なります。



- 原則、リスク(運用成果の振れ幅)とリターン(運用成果)は比例関係なので、『ローリスク・ハイリターンの金融商品はありません』。

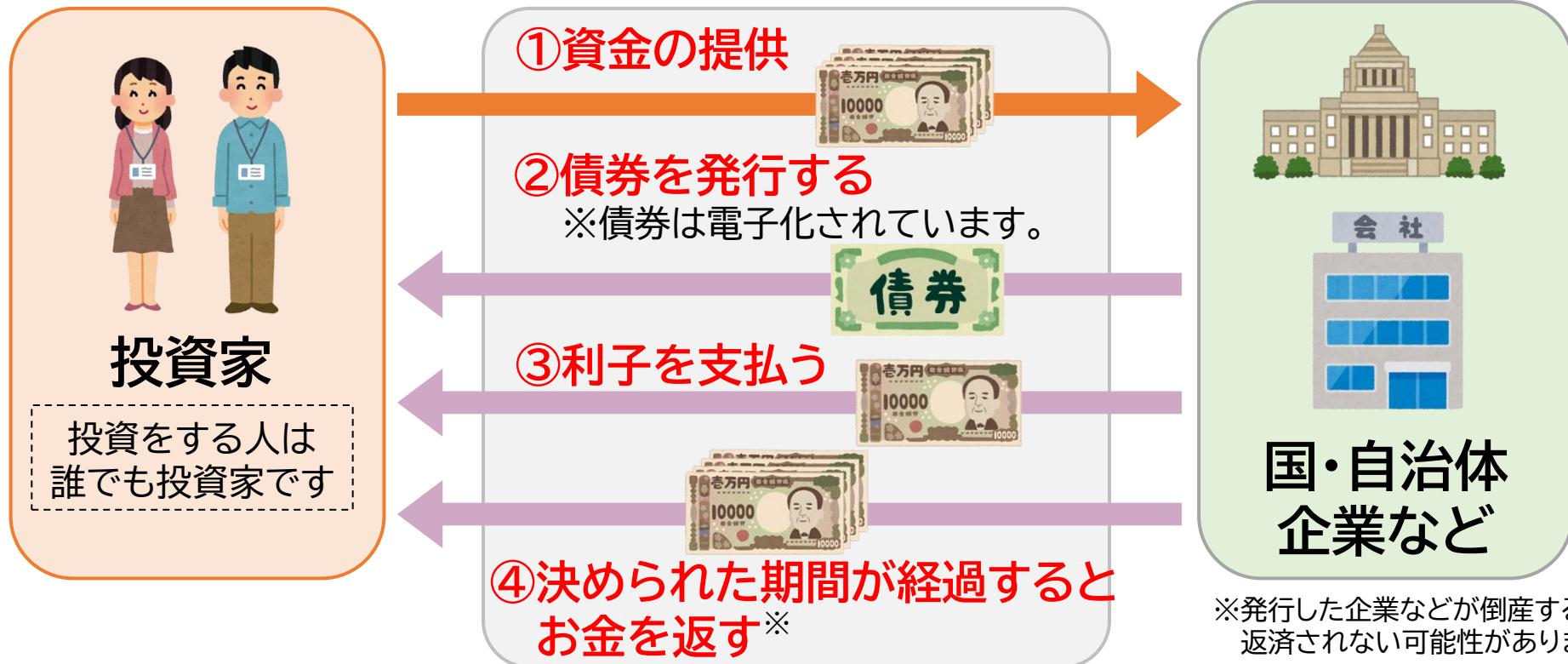


※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。

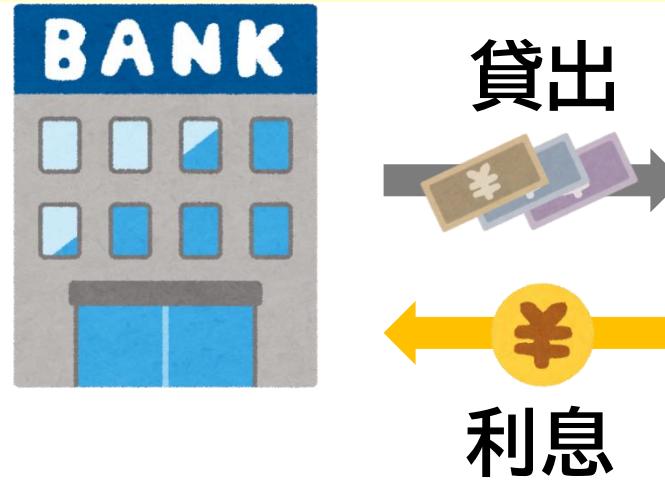
- 『株式』とは、お金を出して応援してくれた投資家に対して、会社が証明として発行するものです。
- 株式投資は、一般的にリスク・リターンともに大きくなります(ハイリスク・ハイリターン)。



- 債券とは、国・自治体や企業が、投資家からお金を借りるために発行する『信用証書のようなもの』です。
- 債券投資は、リスクは小さくリターンも小さめですが、基本的に安全性は高めです(ローリスク・ローリターン)。

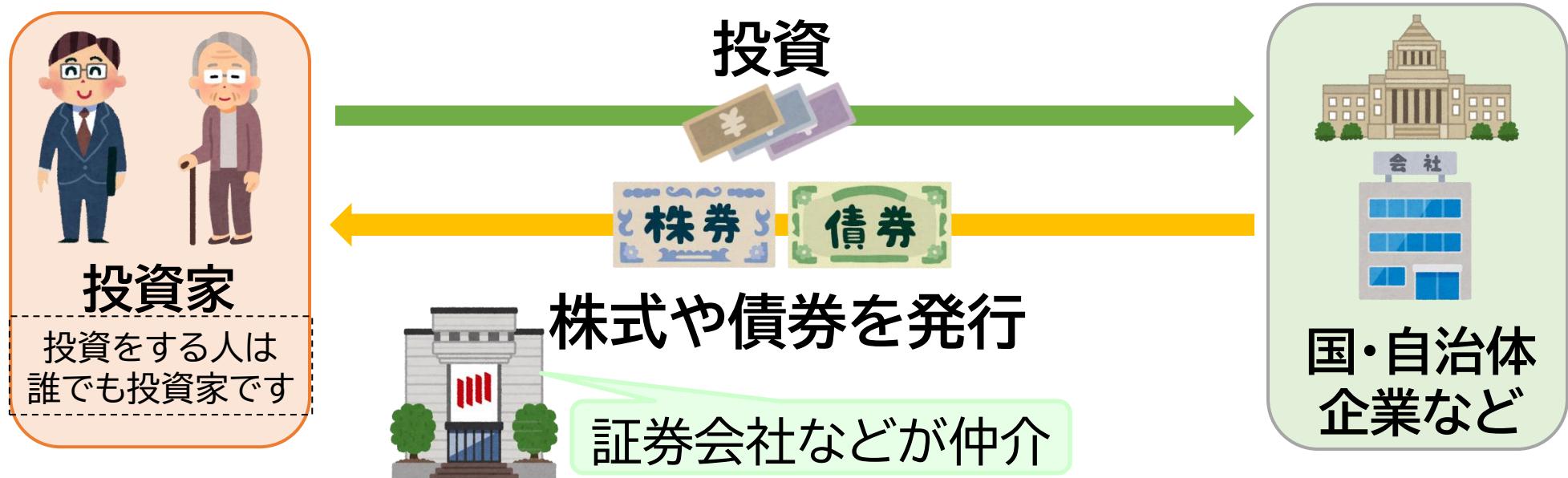


- 皆さんがあんまり金額を貯めると、その貯めた金額は金額が必要な人や会社に『貸出』されます。
- 銀行などから金額を借りた人や会社は、金額を借りたお礼として銀行などに『利息』を払い、その一部が預貯金をした人に渡されます。



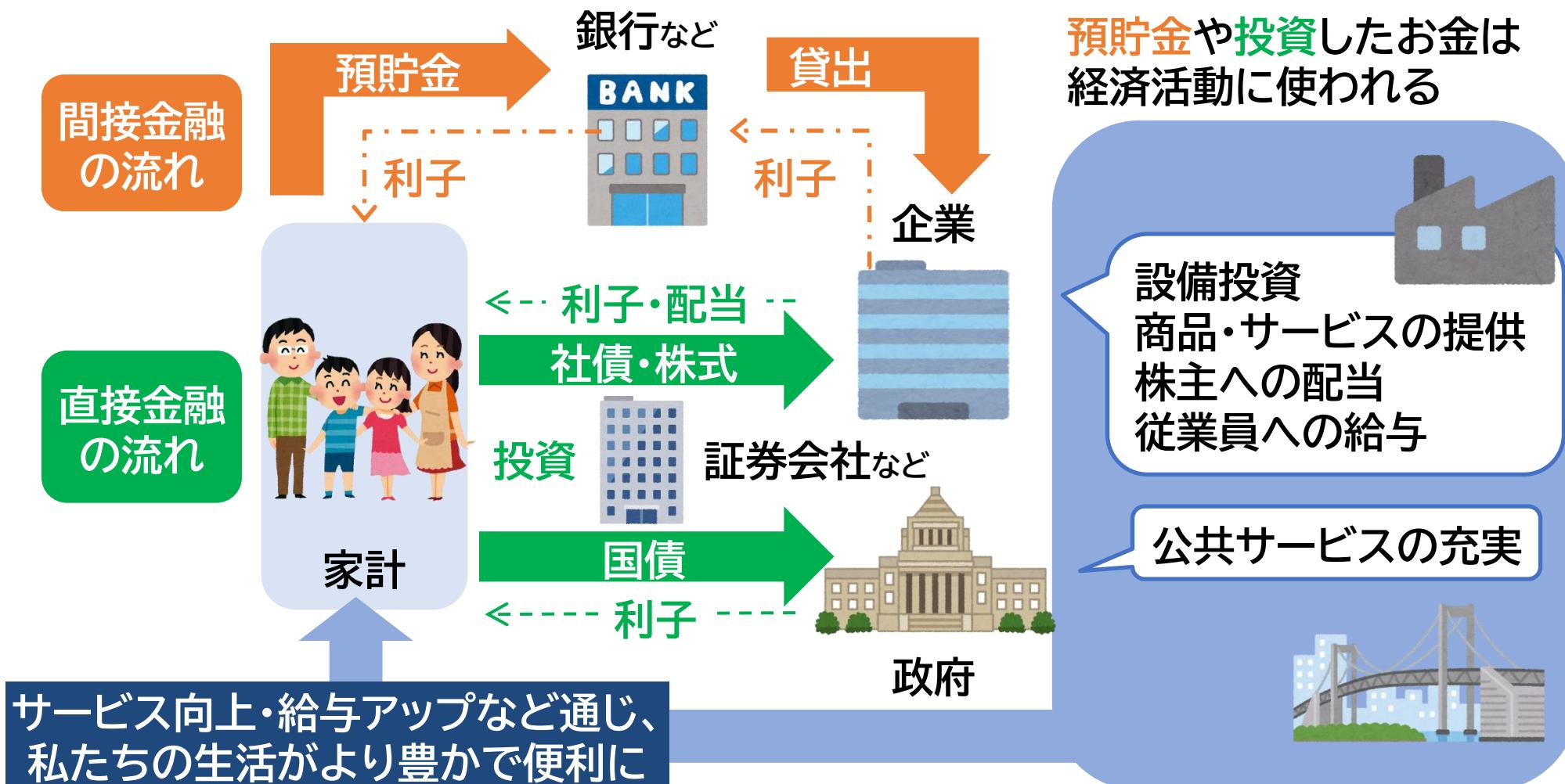
誰にお金を貸すかは預貯金をした皆さんではなく、銀行などが決めます。皆さん、金額が必要な人や会社に間接的に金額を貸すことになるので、このような仕組みを『間接金融』といいます。

- 預貯金と違い、お金を必要とする相手に直接お金を提供する方法があります。
- この時、お金を提供する人を『投資家』といい、代表的な投資の商品として、『株式』や『債券』があります。



預貯金と違い、投資家は自分でどこの会社に投資をするか選び、直接お金を提供するので、このような仕組みを『直接金融』といいます。

○資産形成(預貯金・投資)は、『経済活動を支える』ことで、消費(商品の購入)と相まって『経済を循環』させています。



○消費や投資・寄付等を通じて、『社会課題の解決やSDGsに貢献する』ことができます。

SDGsとは

「持続可能な世界を実現する」ことを目指して、国連サミットで採択された国際目標。貧困や飢餓、保健、教育、ジェンダー、環境、生産、雇用など、幅広く17のゴール・169のターゲットから構成される。



商品の購入

投資・寄付



⇒ 消費(商品の購入)や投資(債券・株式などの購入)、寄付(クラウドファンディング等による被災地などへの寄付)等による資金提供を通じて、社会をより良くすることに貢献できます。

効率的にお金を「貯める」ために、あなたがこれから実践したいことを書きましょう。

授業から分かったこと、実践したいこと